過程、もしくは喪失するための所有について　関西における都心／郊外の住環境と居住形態に関する考察

立命館大学 都市空間デザイン研究室 小山敦子

Genealogy of house which is classification supply situation in modern Japan

関西の住宅ってさ、都心と郊外とでアプローチが違うはずなのに、"住宅"というファンクションにとらわれいて同じ手法に回収されすぎてはいないか。
だってそうだろ。
都心のラーメン屋と郊外のラーメン屋じゃ、規模も、ターゲットとなる顧客も、時間帯も、売れ筋も、店の回転率だって違うはずだぜ。
考えてもみろよ、「どう建つか」じゃなくて、「どう建てるか」が僕らの手の中にかろうじて残っているのは、住宅だけなんじゃないか。

主題：住宅の構えがつくる住宅都市の風景を考察する。住宅を室という抽象レベルに変換、グループ化した上で、俯瞰的に全体を観察し、それらの意味や変化を発見するというプロセスによる
敷地：重鳳アパート跡地(大阪府大阪市浪速区)
　　　鹿の台ニュータウン（奈良県生駒市鹿の台西）

suburb

郊外＝都市のすべて、だが都市の線

戸建住宅の単位で都市を組み立てるとき、街区とかまちなみとか区画割とか、そんなの実はどうでもよくて、ただただ同じ(くらいの)粒をどの密度で並べていくかあるいは組み合わせるのかということこそが都市の風景を作り出す。
郊外は何のコンテクストもないところから生まれるから、もっと例えば"工業地域"とか"臨海地域"みたいにまっさらのロジックで作られるべきなんじゃないのか。

郊外においての構成の形式は以下である。
構造体によってゆるやかに分節されたコア住宅と、コア住宅から飛び出した個室ーアウェーと呼ばれる小スペースと住宅地においてオーバースケール気味のサロン的性格を持つラインハウスーによって構成される。
要素と室の配列関係は相関関係にあり、量塊のかかり具合、向き、密集度によって、空間に勾配が生じ、郊外の特性を担保しつつ不均質な空間構成をとる。

1/6000 suburb site plan

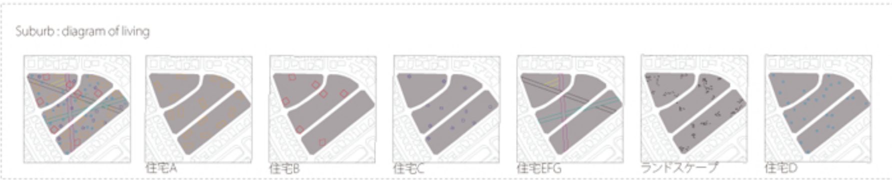
downtown

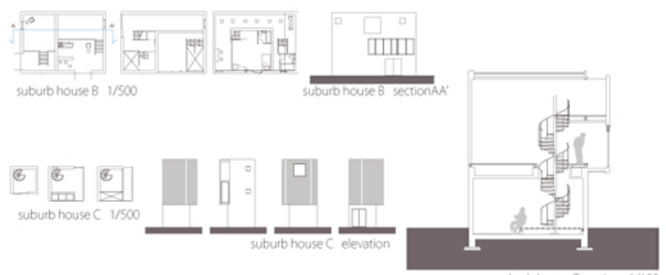
都心＝都市の一部、だが都市の面

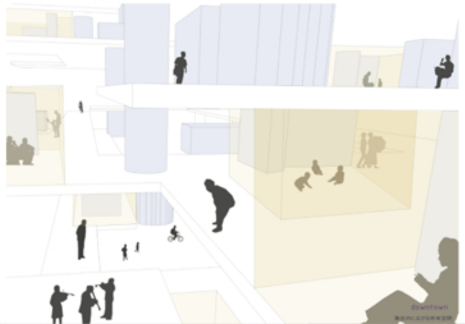
都心の再生計画は、かなり街区に縛られているものである。
都心の住宅群(住宅用街区)は、他の商業施設等と同じ手つきでポンンと"開発される"ものだ。だとしたら、ここで力を入れなければならないことは何か。ここでも構えであり、要するにファサード(外部に接する表面)をどう作るかが、都心の風景を作り出すといえるのではないか。

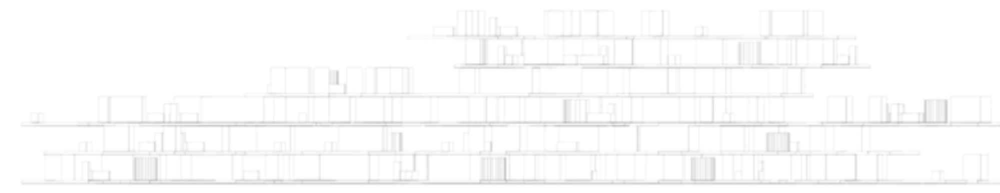
都心においての構成の形式は以下である。
基本計画は、既存集合住宅のリノベーションである。
均質に並んだ個人空間とヴォイドを、様々なスケールにより、また密度の違いを伴った部分の集合としての住宅を再構成する。
また中層部において、３０メートルグリッドに空間を分節し、その単位内においてトラスチューブを飛ばすことにより、階を重ねても空中で自由に居住空間を持てるものとした。
要素と室の配列関係は相関関係にあり、スケールの違う部分の集合、立体空間の抜け具合、向き、密集度によって、空間に勾配を生じさせる。
右下の集住空間モデルを組み合わせ、都心の特性を　担保しつつ不均質な空間構成をとる。

1/6000 downtown site plan



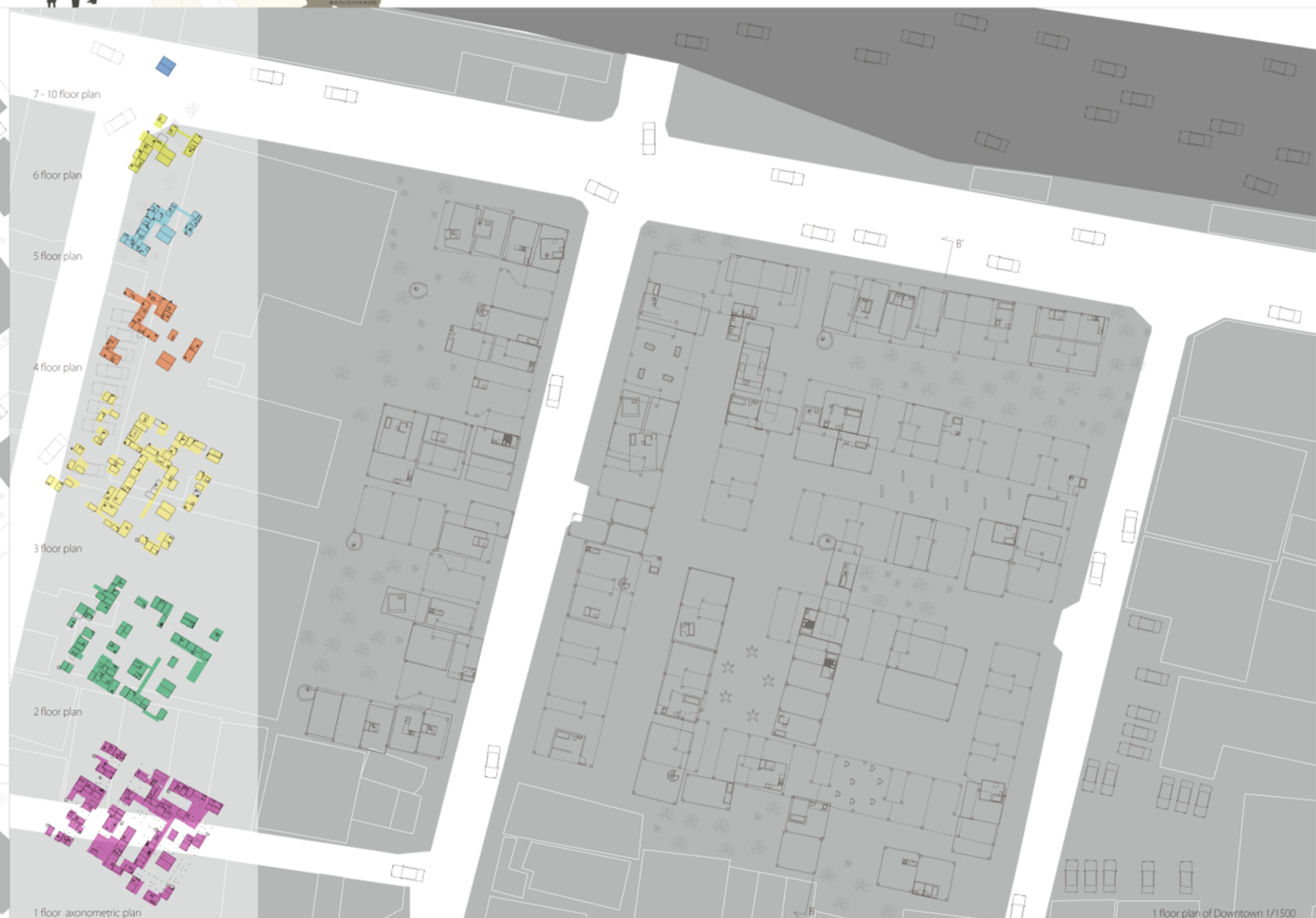






section BB' 1/1500

1 floor plan of Suburb 1/1500



1 floor plan of Downtown 1/1500